



ぎゅっ！あゆ捕まえた

8月1日、上矢作町下の澄ヶ瀬やながオープンし、上矢作保育園の園児54人を招待しました。

澄ヶ瀬やな（代表・松岡昭雄さん）は、毎年、保育園や福寿苑などの福祉施設の皆さんを招待しており、保育園児らは矢作川の冷たい水と遊び、やなに放されたあゆを小さな手で一生懸命捕まえていました。その後、まきで焼いたあゆ、五平もちをおいしそうに食べ、夏のひと時を楽しみました。

小さな手で、一生懸命あゆを捕まえる子どもたち

親子で陶芸に挑戦

山岡陶業文化センターでは、夏休みの子どもたちが参加できる、山岡親子学園「陶芸教室」を8月5日と19日の両日開催しました。7組16人の親子が参加し、5日に作品の形づくりを、19日には十分に乾いた作品に塗料を塗り焼成する行程。

茶わんや皿、アニメのキャラクターなど個性あふれる作品が完成し、仕上がりに満足。親子一緒になって陶芸を楽しみ、子どもは夏休みの作品も出来上がりました。



粘土の形を整えて茶わん作りに挑戦

あなたの旅をうちわに

中山道広重美術館で8月6日、「なつやすみこどもびじゅつかん2005 つくろう旅の思い出アート」が行われました。参加した20人は、旅をテーマにした企画展を鑑賞。クイズで江戸時代の旅を学んだ後、いよいよオリジナルのうちわ作りに。うちわの骨組みに、マーブリングという水に絵の具を浮かべ紙を染めたものを片面に、もう片面には浮世絵の旅人などの印刷を切って張るコラージュで自分のイメージする旅をうちわにしました。

色を上手に組み合わせ、好きな絵の具でマーブリング



体験通して感性磨く

さまざまな体験を通じ、子どもたちの感性や創造性を養おうと7月23日と24日、恵那文化センターで「こどもフェスタ」が開催されました。6回目を迎える今年は、「よもぎでクッキー」や「消えるクレヨンを作ろう」「ペッターズ」など新しいコーナーも登場。35種類のコーナーに2日間で約1500人が訪れました。また中高生のボランティア約200人が各コーナーで活躍。子どもたちと一緒に実験や工作など楽しみながら指導していました。

色とりどりの人工イクラが完成

明智町で夏合宿

大相撲名古屋場所終了後の7月28日から8月3日の間、入間川部屋の夏合宿が明智町で行われ、その初日に入間川親方（元関脇・栃司）をはじめ、地元明智町出身の力士「恵那司」らが市長と面談をしました。

会話の中で市長から「ぜひ市内の夏祭りにも参加いただきたい」との話を快く応じていただき、その日に行われた恵光園の夏祭りに。歌の披露や入居者との握手会など祭りを大いに盛り上げていただきました。

恵光園入居者と握手を交わす恵那司



コンゴ料理で国際交流

7月30日、中公民館で市国際交流協会の料理教室が行われ、18人が参加しました。

講師にアフリカコンゴ共和国出身のデニーズ・ムンバさん（大井町）を迎え、郷土料理の「サニーヤ」を一緒に作りました。日本に来て約4年というムンバさんは日本語で料理の説明のほか、コンゴの生活様式や食材などについて参加者と楽しく会話を交え、親睦を図りました。料理は「あっさり味でおいしい」と好評でした。

コンゴ料理の特徴について説明するムンバさん[®]





歴史ある城下町で能

第21回いわむら城址新能が8月20日に岩村高等学校体育館で開催されました。
 岩村城築城800年を記念し、昭和60年に始まったこの行事。合併後初となる今回は、市内外から約500人の観客が集まりました。
 悪天候のため屋内となった会場では、かがり火の代わりにろうそくに火をともし、重要無形文化財総合指定保持者らの出演者が能や狂言を厳かに披露。集まった観客は歴史ある能と狂言の世界を楽しみました。

秋の京都六條を舞台とした能「融」



中国雑技の技を伝授

8月5日、明智町吉田小学校の体育館で親子観劇が開催され、約120人の親子が中国の大黄河雑技団の演技を楽しみました。
 帽子を使った曲芸には、会場の小学生が挑戦し、その熱演に観客も息をのみました。小学生が中国の民族衣装で登場したり、4人の女性による皿回し、中国コマ、座布団回しの華麗な演技をはじめ、愉快的司会進行と息をのむ曲芸に観客から笑いと拍手が沸きあがりました。

中国雑技団員から帽子を使った技を習う小学生ら

わら草履を作ってみよう

8月23日、三郷公民館の公民館講座「わら細工芸」が行われ、夏休み子どもたち8人が参加しました。
 武並神社のしめ縄を作っているという講師の渡辺光晴さん。その慣れた手つきにとあぐらをかき、足の指まで使うスタイルに最初は戸惑いながらも、わらを編み、継ぎ足しながら一本の長いわら縄に。講師の手ほどきを受けながら、器用にわら草履に仕上げていきました。



講師の手ほどきを受け、わら縄を作る参加者

消防士の体験に汗

岩村公民館の行っている公民館講座の一つとして、8月7日にこども講座「消防士に挑戦」が岩村消防署で実施され、岩村町の小学生を中心に約20人が参加しました。
 救急・消防の連絡が入る指令室では、緊急連絡があった場合の対処方法の見学を、屋外では、放水やロープの上をバランス良く渡る訓練を体験。
 夏の青空の下、小さな消防士たちが訓練に汗を流しました。



足でバランスをとりながら、ロープを渡る訓練の体験



救助隊としての誇りを

8月3日に開催された第34回消防救助技術東海地区指導会ほふく救出の部において、恵那消防署蛭川分署の大濱昌男、小池彰仁、曾我宏明の3人は60チーム中第2位となり全国大会への出場権を獲得しました。恵那市消防本部では実に30年ぶりの快挙です。
 第34回全国消防救助技術大会は8月25日に埼玉県さいたま市で開催され、東海地区の代表として出場した3人は日ごろの訓練の成果を発揮し、見事優秀賞に輝きました。

煙の中から患者を救出するほふく救出訓練



笠置山の自然を知ろう

笠置公民館の行っている公民館講座「木登り大作戦と流しそうめん」が8月13日に開催され、市内の小学生26人が笠置山の自然と触れ合いました。
 笠置公民館裏の山には、地元ボランティアの方が木にロープ結んで作ったブランコなどの遊具があり、子どもたちは自然の中で思いっきり遊びました。楽しく遊んだ後には竹で作った本格的な道具を使って、流しそうめんをみんなでおいしくいただきました。

地元ボランティアの方が作った遊具で遊ぶ子どもたち